

1. 実況上の着目点

- ① 日本の東を東北東進する低気圧から前線が東日本太平洋側を
通って西日本にのびている。前線
上には、熱帯低気圧から変わった
低気圧があって東海道沖を東北
東進。前線や低気圧に向かう下層
暖湿気の影響で、東日本の海上で
は激しい雨が降っている所があ
り、周辺では発雷を検知。
- ② 華北の高気圧が南東へ移動。
500hPa 5880m以上の上空の高気圧
が日本の東から華中を覆い、地上
では太平洋高気圧が日本の南へ
張り出している。高気圧と前線の
間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、しけている所がある。

- ③ 500hPa 5820m付近の正渦度極大域が南西諸島付近から華南を西進し、周辺で対流雲が発生し、強い
雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

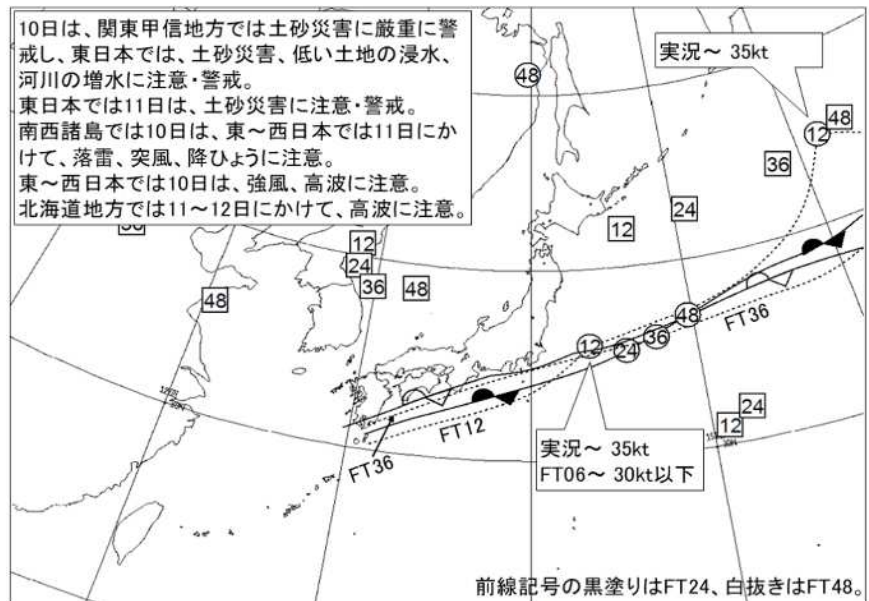
- ① 1項①の前線は本州の南岸付近に停滞。1項①の前線上の低気圧は、本州の南岸付近を通り、10日の
朝には日本の東へ東北東進する。南西諸島では10日にかけて、気圧の谷がのびて降水が広がる。低気
圧や前線、気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い非常に激し
い雨の降る所がある。これまでの大雨で地盤が緩み、少ない雨量でも土砂災害の危険性が高まる所が
ある。10日は、関東甲信地方では土砂災害に嚴重に警戒し、東日本では、土砂災害、低い土地の浸水、
河川の増水に注意・警戒。東～西日本と南西諸島では10日は、落雷、突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の華北の高気圧は不明瞭化して、朝鮮半島付近で発生した高気圧が南東へ移動する。高気圧
と前線との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、しける所がある。東～西日本では10日は、強
風、高波に注意。
- ③ 11日は、2項①の本州の南岸の前線が次第に北上し降水が広がる。前線に向かう下層暖湿気の影響
で、大気の状態が不安定となる所がある。東日本では11日は、土砂災害に注意・警戒。東～西日本で
は11日は、落雷、突風、降ひょうに注意し、低い土地の浸水、河川の増水に留意。
- ④ 11日夜～12日にかけて沿海州からオホーツク海を東進する低気圧付近から気圧の谷がのびて、気圧
の傾きが急となり、やや強い風が吹き、波が高くなる所がある。北海道地方では11～12日にかけて、
高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

- ②波浪(明日まで)：九州北部4、関東・伊豆諸島・北陸・東海・近畿・中国3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「大雨・氾濫・落雷」を05時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図